

# 荒尾市地域公共交通計画

## 概要版



令和5年3月  
荒尾市

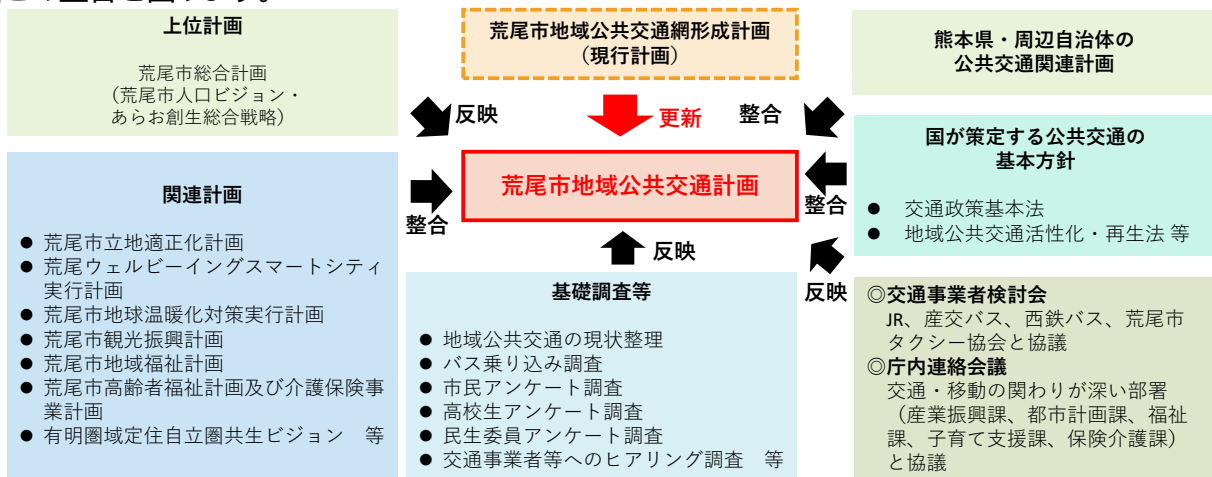
## 計画策定の背景と目的

少子高齢化や自家用車利用の増加に加え、新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式の定着などから、公共交通の利用者が低迷し、交通維持のための財政負担は年々増加傾向にあります。

本計画は、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき、市の公共交通に係る現状と今後の課題を整理するとともに、市の実態に合った持続可能な地域公共交通のあり方を示した上で、今後実施すべき施策等の整理をするために策定しました。

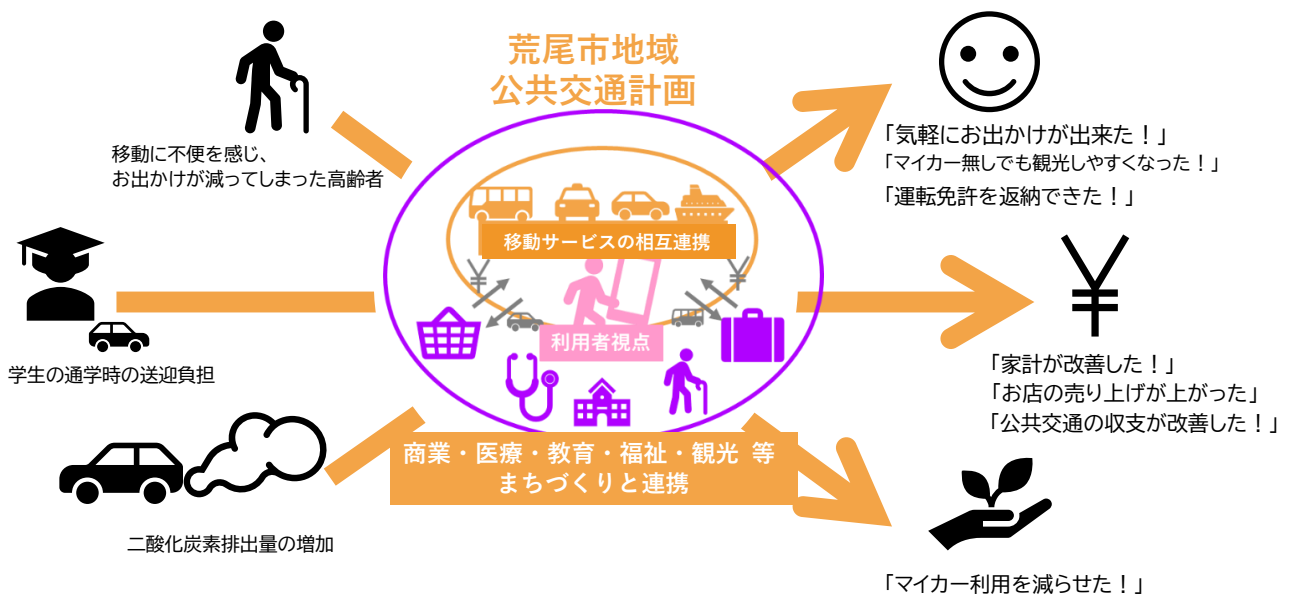
## 本計画の位置づけ

本計画は、「第6次荒尾市総合計画」を上位計画とした計画であるとともに、「荒尾市立地適正化計画」など関連計画との整合を図ります。

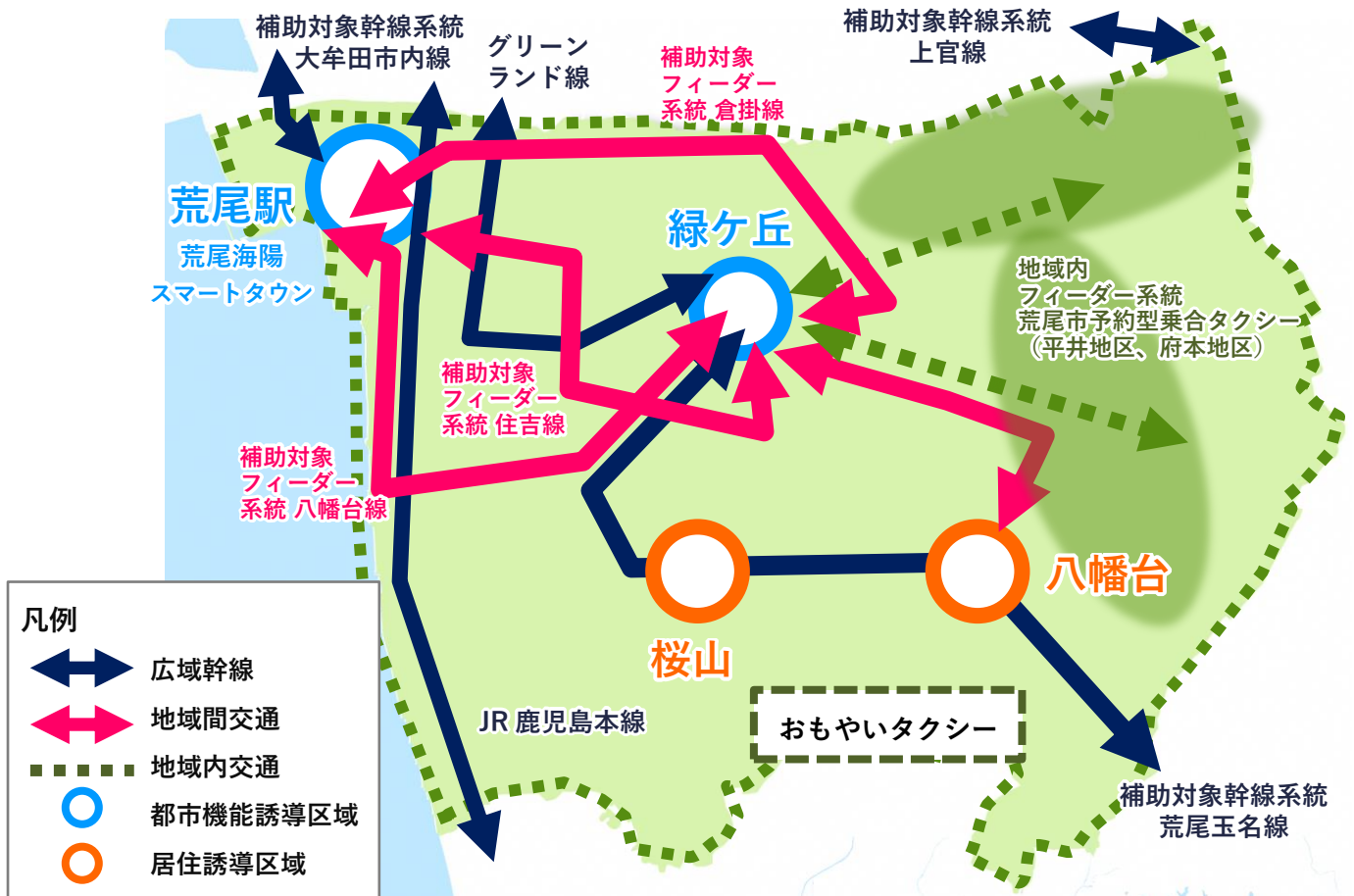


## 荒尾市地域公共交通の目指すべき姿

公共交通の運行効率化・最適化を図っていくことで、市民や来訪者が移動で不便に感じていること等を解決し、楽にお出かけができるサービスを持続的に提供します。また、デジタル技術等を活用し、人と交通機関、交通機関と交通機関、目的地と交通機関など、「つながり」の好循環を生み出す装置としての公共交通を目指します。



＜将来像＞  
 おでかけ らくらくシティ あらお  
 ～つながりの好循環が生まれる交通未来都市～



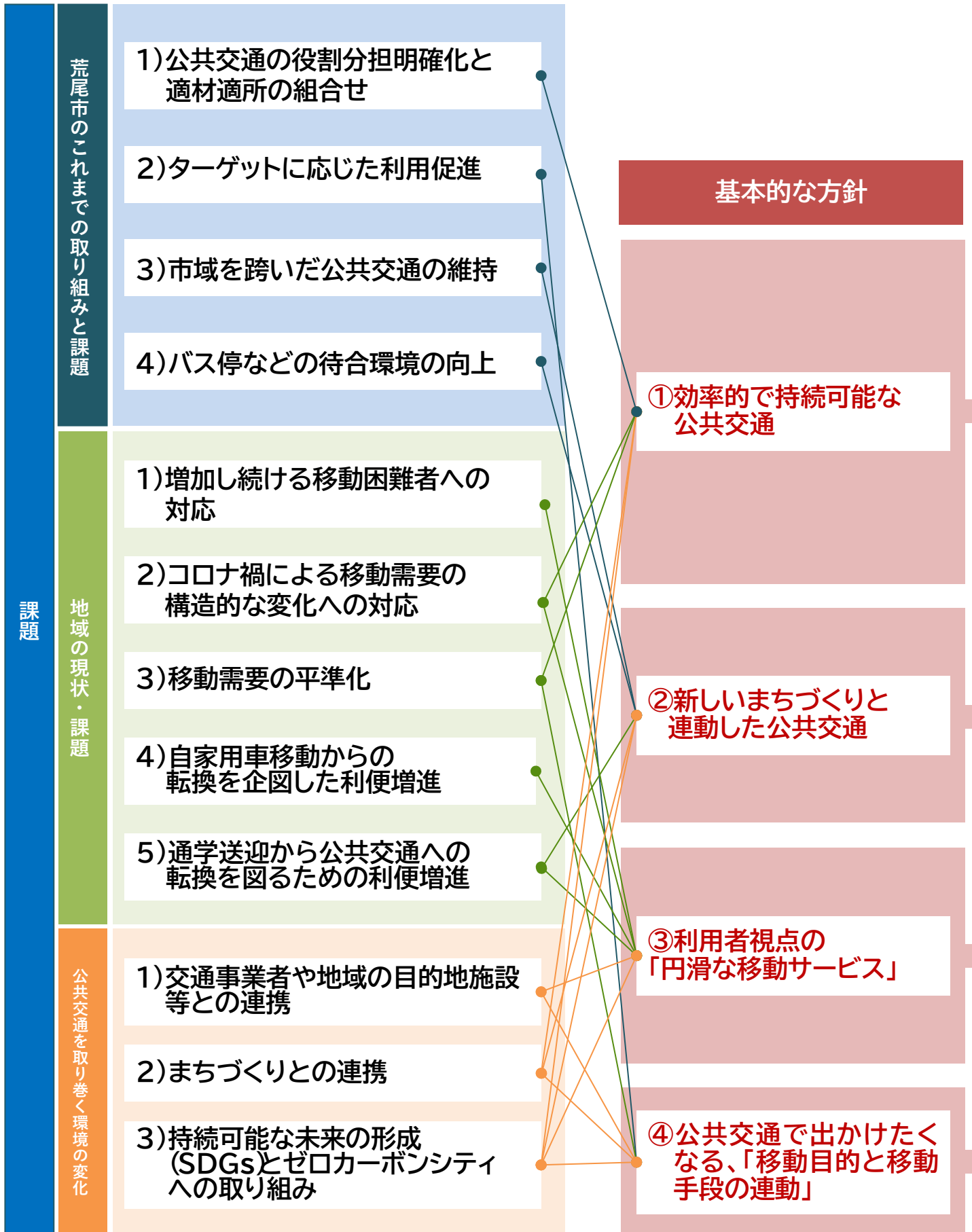
### 計画の対象区間

本計画は、荒尾市の全域を対象区域とします。

### 計画の期間

本計画は、2023(令和5)年度から2027(令和9)年度までの5年間を計画期間とします。

# 計画の全体図





## おでかけ らくらくシティ あらお ～つながりの好循環が生まれる交通未来都市～

数値目標

現状値

中間値  
(R7 年度末)

目標値  
(R9 年度末)

路線バス年間利用者数(産交バス市内路線)

148,259 人

193,000 人

222,000 人

おもやいたクシー、平井・府本乗合タクシー  
年間利用者数

17,801 人

23,000 人

26,000 人

公共交通(産交バス・おもやいたクシー・  
乗合タクシー)の収支率

34%

40%

42%

公共交通(産交バス・おもやいたクシー・乗合  
タクシー)への公的資金投入額(市民一人あたり)

1,475 円

1,420 円

1,380 円

自家用車から公共交通への転換による年間二酸化  
炭素削減量

0 t

1,100 t

1,800 t

JR 荒尾駅乗車人員

776 人/日

1,000 人/日

1,100 人/日

路線バス年間利用者数(西鉄バス大牟田)

337,504 人

431,000 人

478,000 人

路線バス年間利用者数(産交バス市内路線)※再掲

148,259 人

193,000 人

222,000 人

直近 1 年間で路線バス、おもやいたクシー、  
乗合タクシーを利用した市民の公共交通満足度

53%

70%

80%

IC カード利用率(産交バス市内路線)

30%

51%

65%

観光・交通アプリ「おでかけあらお」  
ダウンロード数

700 件

5,000 件

8,000 件

運転免許証自主返納者数(荒尾警察署管内)

170 人

210 人

230 人

直近 1 年間で路線バス、おもやいたクシー、  
乗合タクシーを利用した市民の割合

10%

30%

40%

## 基本的な方針・計画目標と実施事業

### 基本方針1 効率的で持続可能な公共交通 ▶ 目標1 公共交通全体の利用者数の維持向上

利用者の視点を重視し、様々な交通モードが相互に連携・補完し、利用者の移動ニーズに基づいたダイヤ設定等、利便性が高く環境負荷の低減につながる持続可能な公共交通網を目指します。

#### ① おもいやタクシーの運行充実と平井・府本地区乗合タクシーの効率化

●一部混雑する時間帯が発生しているおもいやタクシーについて、需要に応じた運行改善・平準化に向けた取り組みを実施します。

●運行内容が類似する予約型乗合タクシーについて、より効率的な運行方法を検討します。



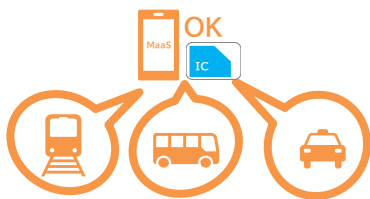
#### ② 様々な交通モードによる連携・補完を目指した、運行内容の継続的な改善

●鉄道駅における路線バスとの接続改善や、運行時刻・運行回数の調整を行い、おもいやタクシーと鉄道や路線バスとのスムーズな接続に向けた運行改善を図ります。



#### ③ 公共交通の効率的な運行に向けた DX の推進

●公共交通の効率的な運行に向け、DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進します。



#### ④ 公共交通の持続的な運行に向けた人材確保支援

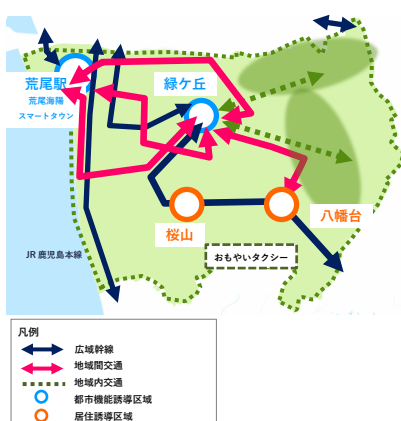
●公共交通の持続的な運行に向け、運転者人材の確保が重要であるため、市内に本社がある交通事業者に向け、第二種運転免許の免許取得費用の支援や、求人情報の紹介等の人材確保策を行います。

### 基本方針2 新しいまちづくりと連動した公共交通 ▶ 目標2 「スマート」な移動環境構築

あらお海陽スマートタウンの進捗状況に応じ、新たな人の流れや利用者ニーズに鑑みて、公共交通網を再構築します。また、交通結節点におけるバス停の環境改善や、スマートシティの実現に向けた公共交通を含めた様々なデータの利活用により、「スマート」な移動環境構築を目指します。

#### ① 持続的な運行に向けた市内完結路線バスの改善

●あらお海陽スマートタウンの進捗や移動ニーズに応じ、荒尾駅や緑ヶ丘地区等の市内主要箇所を結ぶ新たな路線網を検討し、市内の基幹的な路線を持続的に運行するための改善を実施します。



※市内路線の一部系統については、国の生活交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統確保維持事業)を活用し、持続的な運行を図ります。

#### ② 地域間交通の維持・改善

●市外を結ぶ地域間の公共交通である鉄道、路線バスについて、鉄道事業者、バス事業者と連携し、幹線路線の維持を図ります。

※玉名方面及び大牟田方面の路線バスについては、国の生活交通確保維持改善事業(地域間幹線系統補助)を活用し、持続的な運行を図ります。



### ③ スマホアプリ/スマートバス停/デジタルサイネージによる情報提供・待合環境の改善

- 新しいまちづくりの進捗と連動し、スマートフォンを活用した情報提供やスマートバス停・デジタルサイネージを設置します。
- 交通結節点や利用者の多いバス停については、情報提供機能と併せて待合環境の改善を目指したベンチや屋根の設置・更新を行います。



### ④ スマートシティの推進に向けたデジタル技術の利活用

- スマートシティの推進に向け、新たなモビリティの導入を検討します。
- GTFS※<sub>1</sub>等のオープンデータの活用、ICカードデータや観光・交通アプリ「おでかけあらお」(MaaS※<sub>2</sub>アプリ)等の移動にかかるデータの連携等により、他のデータと組み合わせ、公共交通やその他の都市課題の解決につなげます。

※<sub>1</sub>: 標準的なバス情報フォーマット  
 ※<sub>2</sub>: Mobility as a Service の略。さまざまな交通手段による移動を1つのサービスとしてとらえて継ぎ目なくつなぐ「移動」の概念



## 基本方針3 利用者視点の「円滑な移動サービス」 ▶ 目標3 公共交通間連携によるサービス改善

利用者の利便増進の観点から、市民が円滑に移動できるよう、複数交通機関横断の運賃施策を検討します。その際は、公共交通の持続可能性に十分配慮し、利用状況や収入の配分方法、適切な受益者負担の考え方等にも留意しつつ、ターゲットを絞った施策検討を行い、移動サービス改善を目指します。

### ① 市域全体を対象とした交通モード横断の新たな運賃施策の設定

- 移動目的(買い物、観光、健康づくり等)に応じ、様々な交通機関を円滑に組み合わせて利用できる環境の構築に向け、利用促進策と合わせて運賃施策を検討します。
- 乗り放題チケット・定期券(紙券)やスマートフォンのデジタルチケット等の活用を検討します。

※観光・交通アプリ「おでかけあらお」(MaaSアプリ)の活用や、交通事業者各社のMaaSアプリの開発・普及状況を見据えて検討します。



### ② 高校生を対象とした通学における公共交通の利用促進に資する運賃施策の検討

- マイカー送迎通学から公共交通利用への転換を目指し、新たな定期券の導入に向け、交通事業者や周辺地方公共団体と共に最適な価格設定・サービス内容を検討します。



### ③ 高齢者の更なる公共交通利用促進に向けた福祉特別乗車証制度の改善

- 高齢者の外出促進を目的に実施している福祉特別乗車証制度について、ICカード化を検討し、荒尾市内の他の公共交通/商業施設とのスムーズな連携を目指します。





## 基本方針4 公共交通で出かけたいくなる、「移動目的と移手段の連動」

### ▶ 目標4 自家用車に依存しない、楽しいお出かけの促進

移動目的先となる市内の各事業者(商業施設や医療機関、健康づくり施設等)と連携した、消費活動や健康・生きがいづくりの促進と、その際の公共交通利用を合わせて促す施策を実施し、自家用車に依存しない楽しいお出かけを促進します。

#### ① 健康づくり施策と連携した、行動変容を促す利用促進の実施

- 元気な高齢者をターゲットに、健康づくり施策と連携した、行動変容を促す利用促進策を実施します。
- 実施に際しては、市公式 LINE や観光・交通アプリ「おでかけあらお」等のデジタルツールの活用を検討します。



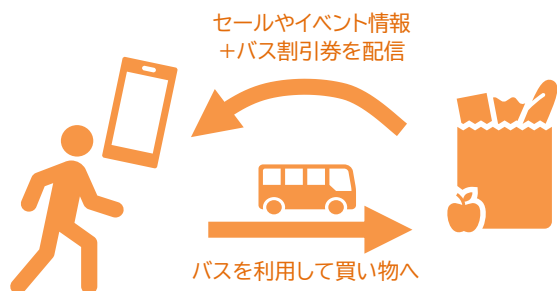
#### ② 高齢者の移動活性化に向けた自動車運転免許返納促進

- 免許返納後においても、安心安全な移動を確保するため、おもやいタクシーをはじめとした公共交通の最適な利用方法などの情報発信を強化します。



#### ③ 商業・観光施設と連携した、行動変容を促す利用促進策の実施

- 移動の目的地となる商業・観光施設と連携し、観光・交通アプリ「おでかけあらお」(MaaS アプリ)を活用した、移動目的(買い物、観光、健康づくり等)に応じた最適な移動の提案を行う仕組みの構築を研究します。
- 公共交通機関の利用を促すために、商業施設の特売情報や各種イベント情報等と併せて、運賃が割引となるデジタルチケット等を同時に配信・情報提供しつつ、ターゲットを絞った「路線バス無料の日」等を実施します。



#### ④ 若年層が公共交通をより身近に感じてもらおう取り組みの実施

- 若年層に対し公共交通に慣れ親しんでもらい、将来に向け安定的に利用者確保するため、幼児～小学生へ向けた「バスの乗り方教室」を継続します。
- 子育て世代へ自家用車が無くても安心して子育てできる環境をPRすると共に、中高生向け、親へ送迎負担をかけずに通学ができることを周知し、公共交通の利用促進につなげます。



#### ⑤ 移動の支援が必要な方が安心できる移動環境の構築

- 移動の支援が必要な方を地域主体で支え、誰もが安心して移動できる環境の構築を支援します。
- 日常的な移動を支えるために、地域主体の互助的な輸送手段の導入支援を行います。また、地域主体で日常的な移動環境を構築することで、災害時等の移動の円滑化につなげます。